つかやま

塚山古墳群

笹塚古墳の北西へ約 5.5km に位置し、姿川と田川に挟まれた宝木台地上に立地します。

この古墳群では、塚山古墳、塚山西古墳、塚山南古墳の３基の前方後円墳と塚山４号墳～塚山８号墳の５基の円墳、10基の埴輪棺が確認されています。

塚山古墳は墳長 98mの前方後円墳で墳丘は三段に築かれ、後円部と前方部の一部に葺石がみられます。遺物は、円筒埴輪・朝顔形埴輪・土師器・須恵器が出土しています。これに後続して墳長63.1mの帆立貝形前方後円墳である**塚山西古墳**、墳長 58mの帆立貝形前方後円墳である塚山南古墳が順次築造されます。**塚山南古墳**のくびれ部付近からは大量の須恵器が出土しています。

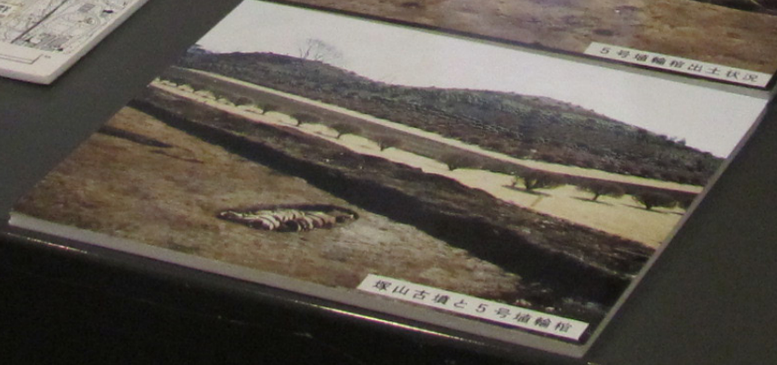
５号墳は、本古墳群の中で唯一主体部のわかる例です。墳径９mの小規模な円墳で、その中央に組合式の木棺が安置されていました。副葬品は勾玉・管玉・ガラス小玉など多量の玉類が出土し、中でも勾玉は頭部に三条の刻線をつけた丁字頭の、古い形態のものです。また、出土した埴輪は、全体像のわかるものはありませんが、三条突帯で、透孔が方形と半円形のものです。このことから塚山古墳に併行する時期に築かれた古墳と考えられます。

５号円筒埴輪棺は、内法の長さが 1.65mと当時のほぼ平均身長に相当するこ

①鹿の絵のついた円筒埴輪

塚山古墳の後円部南の隅地から埴輪棺として出土した中に、鹿の線刻のある円筒埴輪があります。鹿は、口縁部外面に、メス、オス、メス、オスの順序で描かれています。その下の段には、大きく斜め十文字（×印）が線刻されています。

埼玉県大宮市東宮下出土の人物埴輪の右膝の部分にオスとメスの鹿の線刻とともに斜め十文字がありますまた、左膝には長方形を斜めに最も割ったような図形があります。この図形を見ととらえ、斜め十字文は屋＝邪悪な存在から魔を守る図文であるとも考えられ



蒲生君平は「前方後円墳」という言葉を初めて用いたことで有名だけど、どうして前が方（四角）で後ろが円なのか、不思議に思ったことはないかな？

蒲生君平は、古墳は死者を運ぶための車をかたどったもの、つまり、

前方 ＝ 車を引く取っ手

後円 ＝ 柩（死体を入れる箱）を乗せる台座

と考えたんだ。

ハニオくん

②不思議な文様のある円筒埴輪

塚山古墳群出土の円筒埴輪の中に、渦巻の描かれた埴輪が２点あります。それは線刻文と呼ばれる線で描かれたものがあります。それは線刻文と呼ばれる線で描かれたものがあります。